

## 5月の授業記録をお送りいたします。

向夏の候——ご父母各位におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

紫陽花の大輪が、そこかしこで美しく咲き誇る時節の訪れです。色とりどりに花を開くそのさまは、季節の移ろいというものを饒舌に伝えています。すでに梅雨に入って久しく、しばし雨の多い毎日が続くこととなりますが、この長雨が終わり、梅雨明けを迎える頃には今年もまた、受験生にとって「勝負の夏」がやってまいります。

所沢市内の各中学校では今月末から来月上旬にかけて「1学期・期末試験」を控える学校が多くございます。当塾ではご案内のように「定期試験対策」を試験1週間前から連日実施しておりますので、ぜひご父母各位におかれましては、お子様に対しましてぜひ積極的に塾を活用して来たる試験へ向けしっかりと備えるようお声がけをお願いいたします。



また中3受験生の中には、部活動の引退を迎えたお子様もいらっしゃるかと存じます。通常の授業以外の曜日・時間帯であっても、教室の自習スペースを随時開放しています。また「土曜無料補講」も実施しておりますので、ご家庭での学習が捗っていないようであれば、ぜひとも教室へお預けください。「受験生としてどういった学習が必要なのか」「今、すべきことは何なのか」など、本格的に受験勉強へ向かおうとする1人1人のお子様に対し、真摯に向き合いながら丁寧に指導してまいります。

### ■塾からのご案内■

#### ① 今月中旬～7月上旬に「保護者対象・個別面談」を実施します。

今月中旬～7月上旬にかけ、在塾する小中学生の保護者各位を対象に、「個別面談」を実施させていただきます。教室長との「1:1」の形式で、お1人様につき約40分をおとりいたします。

塾での学習状況や今後の学習の展望、進路にまつわるご相談など幅広くお話をさせていただきたいと思っております。詳細につきましては、各ご家庭にお送りした「個別面談のご案内」をご覧ください。

#### ② まもなく、「夏期講習のご案内」を各ご家庭に送付いたします。

本年度の夏期講習は7月24日(水)～8月28日(水)の間、正味26日間を実施する予定です。「夏期講習のご案内」が完成しましたら速やかに各ご家庭に送付いたしますので、講習の詳細についてはそちらで内容をご確認ください。なお、塾より「受講のご提案」も添えさせていただきますので、そちらにもお目通しをいただければ幸いです。

### ■塾からのご案内■

#### 「紹介カード」を、ぜひご活用ください！

お知り合いで塾をお探しの方がございましたら、

この「紹介カード」を積極的にご利用いただき、当塾を応援していただければ幸いです。

特典として、ご紹介していただいた方が入塾する運びとなった際には、  
ご紹介者(在塾生のご家庭)に「QUOカード2000円分」を進呈させていただきます！  
詳細は各教室までお問い合わせください。

### 学習のアドバイス

今回は社会の「地理の勉強法」についてお話ししたいと思います。まずは社会全般にいえることですが、最も時間をかけて取り組まなければいけないのは、知識のインプットです。知識がない状態で問題演習を進めても、決して学力はつきません。ただし、漠然と暗記してもすぐに忘れてしまいますので、具体的にどのような点に注意

して勉強すればいいのか、ポイントをいくつか挙げていきましょう。

1つ目のポイントは、気候・産業・人口・交通など「テーマ別に学習する」ということです。学校の授業では、アジア・アフリカ・ヨーロッパといった地域別に学習を進めていきますが、テストでは地域ごとの資料を比べて設問に答えることがほとんどですので、テーマ別に知識を整理した方が、効率よく得点力を養うことができ、テストに強くなります。

2つ目のポイントは「なぜ考える」ということです。例えば「東南アジアでは稲作が盛んである」ということを学んだとしたら、ただ単に暗記するのではなく「なぜ東南アジアでは稲作が盛んなのか」を考えてみるのです。すると「気候」的には東南アジアは温帯に属しているため季節風の影響で降水量が多いから稲作が盛んなのではないかと、また「人口」に注目すれば東アジアは人口が多いのだから食物の生産量が多いはずだ、というように他の知識と関連付けて理解ができ、忘れにくくなります。

3つ目のポイントは「自分なりに推測する」ということです。外れても一向に構いません。とにかく学習した知識や与えられた資料から結果を推測する練習をしてください。こうすることで新しい内容がスムーズに頭の中に入りますし、思考力も鍛えられます。

以上のポイントを踏まえて知識をインプットしたら、問題演習でアウトプットして知識を活用する力を身につけましょう。インプットさえしっかりできていれば、一気に成績が伸びるはずですよ。

### 平成31年度入試を振り返って ③

前回は県内私立高校の応募状況について分析しましたが、いかがでしたでしょうか。今回は県立高校入試の難易度について、平成31年度入試の平均点をもとに分析してみたいと思います。

学力検査問題における平均点は253.1点で昨年よりも7.2点下がりましたが、教育委員会が発表した予想平均点は256点、科目ごとに見ても予想の平均点と実際の平均点の差が5点前後でしたので、期待通りの結果と言えそうです。科目別の平均点ですが、国語は58.3点、数学が42.3点、社会が60.3点、理科が44.5点、英語が47.7点でした。学力上位層が学校選択問題に回る英語と数学については、数学が問題の難易度、平均点ともに昨年並みだったのに対し、英語ではリスニングの出題傾向が大きく変わった影響を受けて平均点がかなり下がりました。共通問題では、国語と社会は易化したために平均点が上昇し、理科は難化して平均点が下がるという昨年とは逆の傾向となりました。

学校選択問題における平均点は、英語が64.3点、数学が53.5点で昨年と比べてかなり上昇しました。予想平均点は昨年同様英語が65点、数学が60点でしたので、数学はやや下回っていますが、まずまずの結果と言えるのではないのでしょうか。正答率や標準偏差などの詳しい分析結果はまだ出ていませんが、英語と数学ではあまり差がつかず、共通問題の国語・理科・社会の出来が合否を分けた模様です。

こうしてみると、学力検査・学校選択問題ともに大体教育委員会の思惑通りの結果となりましたので、しばらくは出題傾向と難易度に大きな変化はなさそうです。

## 教室長日記

### ピアノの練習から学ぶ「学習」



先日、とあるピアノ発表会的なイベントに参加しました。その日のために練習を積んできたつもりでしたが、そこで自分の思い通りに弾けたかと言うと、もちろんそうではありませんでした。

「このように弾きたい」というイメージを持ち、それに近づけていく、しかしうまく弾けない箇所は必ずいくつもあるもので、そこだけを地道に反復練習して身に付ける、といった作業の積み重ねを長期間続けて、最終的に弾き込んで仕上げていきます。

しかし、本番のステージで思い通りの演奏ができる人は、まずいません。「思い通り」の80%も出せば上出来と言えます。第一線で活躍している演奏家でも同様です(CD等の録音は編集で完璧にしてあるのです)。

本番の生演奏には、聴く側にはわからなくてもかなりの「きず」があるものです。演奏の破綻につながるものでなくても、思い通りに弾けなければ全て「きず」です。緊張や、普段と違う空気などが、感覚を微妙に狂わせます。そのような中で、聴く側に「きず」と思われるようなミスができるだけ少なくするには、どうしたらいいのでしょうか。

イベントの最後に、ある高名な指導者が講評の中で、「練習量が少ないと、本番でうまく弾ける可能性が下がってしまう。それこそ緊張の原因である。我々は本番で思い通りに弾ける確率をできるだけ上げるために、気の遠くなるような練習をするのだ。」と仰っていました。つまり、人前で弾く曲の場合、練習によって「仕上がった」と思った、その時から本当の「練習」が始まるのです。緊張は練習量に反比例し、練習を積むほど、本番での「きず」が減っていくのです。

ここまでの「本番」を「試験」、「ピアノを弾く」を「問題を解く」に置き換えると、ちょうど普段の「練習」すなわち「学習」で留意すべきこととなります。

ですから、「私はやればできる」「試験は運ゲー」などと思っている人は、いわば反比例の式の「x=0」状態です。これを読んだら直ちに練習すなわち勉強を始めて、xを0でない値にしてください。